９月のほけんだより

猛暑が続き今月も９月とはいえまだ残暑が厳しくなりそうです。先月は、手足口病・ＲＳウイルス・アデノウイルス・新型コロナウイルス等の感染症の報告がありました。この時期は、夏の疲れが出やすい時期です。元気に活動に向かえるよう、今一度、お子様の健康生活を見直し、生活リズムを整えて、残暑を乗り切りましょう。また、夏の休みの間大きな怪我や感染症などの病気・新たにアレルギー症状が出たときは、園にすぐにお知らせ下さい。

９月９日は救急の日　乳幼児の事故を防ごう

ここ数年で多くみられる自転車に子どもを乗せている時の事故について紹介します。園への子どもの送り迎えなどに自転車を利用する保護者の方も多いかと思います。もう一度確認してください。

注意したい子どもを乗せた自転車の転倒

幼児用座席に子どもを乗せた自転車が転倒して子どもがけがをする事故が多くみられます。事故は、荷物を降ろす間や、保護者が目を離したわずかな間に起こっています。消費者庁に医療機関から寄せられた事故事例には、次のようなものがあります。

事例１：子どもを停車中の自転車の前席に乗せて、母がヘルメットを装着しようとしたところ自転車ごと左側に転倒（地面はアスファルト）。擦過傷を負う（１歳児）

事例２：子どもは自転車の前席に乗っていた。母が駐輪場で自転車の向きを変えようとした時にハンドルをとられてしまい、自転車ごと転倒。打撲傷。（２歳児）

こうした事故を受けて、国民生活センターでは次のような消費者へのアドバイスをしています。

●幼児を乗せて自転車を扱う時には、押し歩きや駐輪動作中にも転倒の危険性があることを認識すること。またヘルメットは必ず乗車前に着用させること。

●幼児を乗せた自転車は重さが増すため、確実に支えることが出来るように、必ず両手で自転車を操作する。また、後席に幼児を乗せた際には、幼児の重量で後席が倒れ込む場合や前輪が浮く場合があるため、特に注意し、後席を荷台に取り付ける際には前輪を浮きにくくするために極力、荷台の前方に取りつけること。

●幼児の乗せ降ろしの際には、ハンドルが、真っすぐ前に向いてる事、自転車が横方向に傾いていないことを確認して、スタンドをロックする。

事故予防の基本として、子どもを自転車に乗せる前にヘルメットをかぶせる事。乗せた後にはシートベルトをつける事。停車中の場合でも、自転車を両手で支え、手を離さないようにすることが重要です。また、自転車に子どもを残した状態で離れるのは大変危険ですので、絶対にやめましょう。

転んだ時に、手が出るために　いろいろな動きをやってみよう！安全能力を高める運動のすすめ

転んだ時にとっさに手がでたり、あごを引いて顔や頭を守ったりなど、危険から身を守るためには、普段から体の調整力や体力・運動能力を高めていくことが大切です。多様な動きを身につけるためには、４つの基本の動き（①歩・走・跳・ホップ・ギャロップなどの移動する動き、②バランスをとる動き、③物を操作する動き、④その場でぶらさがったり、押したり引いたりする非移動系の動き）の経験を重視します。また、親子で体を動かしたり、瞬時に動いたり、筋力をつけたりする動き、お互いの体重を貸し借りしながらの組体操や親子体操は、おすすめです。